

研究テーマ	院内研修における企画力育成・強化モデル有用性の検証 —中小規模病院の研修企画を通して—
研究期間	平成 26 ～ 27 年度
主たる研究者	【学部・学科】看護福祉学部・看護学科 【職・氏名】教授・寺島喜代子

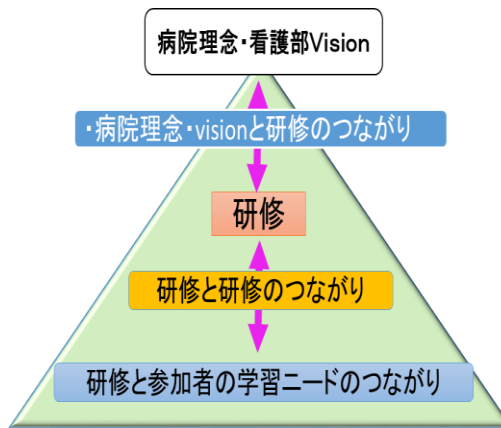
研究目的

福井県の医療提供体制の特徴は、病床数規模が大きい超急性期を担う病院が二次医療圏の福井坂井地区に集中し、300 床以下の中小規模の病院の割合が 89%と高いことである。平成 25 年の診療報酬改定で重点課題に位置付けられたのは医療機関の機能分化と連携、在宅医療の充実である。したがって中小規模病院は超急性期を乗り越えた患者の受け皿として機能し、在宅医療も視野に入れてケアの質を高めた早期退院と在宅療養の支援体制を整える役割が求められる。しかしこれらの病院の看護管理者が抱える共通の問題は、慢性的な看護師不足に加えて中堅看護師のキャリア発達の難しさであり、院内研修の企画運営に難しさを感じていることである。¹⁾

このような現状から我々は、福井県病院研修機能強化事業（平成 22 年度～25 年度）を受託し、県下の 200 床前後の 4 病院の研修企画を支援し、研修企画を介した合同研修会を重ねた結果「研修企画力の育成・強化モデル」（以下、「三重のつながり」）を提案するに至った。そして今回、このモデルの有用性を検証するために、「中小規模病院研修機能強化プログラム」として新たに 5 病院の参加を得て、研修企画の進め方や運営の支援を実施した。

〇27 年度の概要

参加病院は、春江病院、嶋田病院（福井・坂井地区）、福井勝山総合病院（奥越地区）、林病院（丹南地区）、泉が丘病院（嶺南地区）の 5 病院であり、各病院が選出した 6～9 名を研修企画者と、本学教員 3 名を含めて 42 名が下記研修会に参加し、研修の企画、実施、評価を行った。



※26 年度の概要

研修テーマを決めるうえで、左記の“三重のつながり”を紹介し、自病院のこれまでの研修の問題点を明らかにした。その結果「病院理念」や参加者の学習ニーズを意識することなく場当たりの研修を企画し、その研修の評価を看護実践の場で確認することなく、“単発で一度つきり”の研修であったことに気づいた。その気づきから、自病院の学習ニーズや看護部理念から導かれた教育ニーズの双方から研修を企画することができた。しかし、26 年度研修の今後の方向性を考えるうえで、左記のモデルだけでは不十分であり研修と研修のつながりをイメージするモデルが必要だと分かり、“軸モデル”として提案した。

【27 年度第 1 回合同研修会（6 月 20 日）】参加者：32 名

各病院の 27 年度研修企画について“三重のつながり”と“軸モデル”の双方から評価しあった。26 年度の研修評価を踏まえ、27 年度研修が学習ニーズに合っているか、理念と繋がっているか、26 年度研修とのつながりを“軸モデル”でズレがないかを確認しあった。

【27 年度第 2 回合同研修会（7 月 5 日）】参加者：35 名

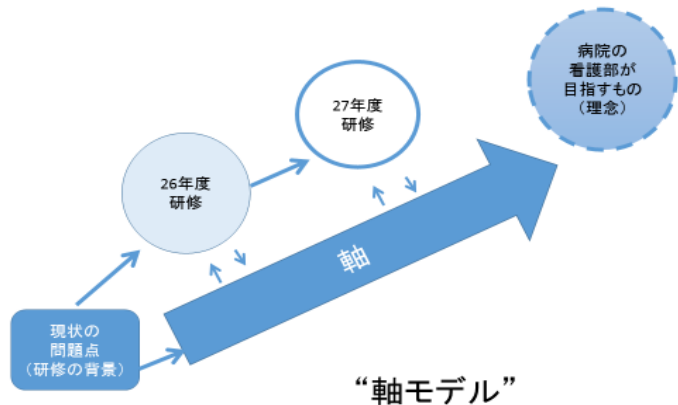
講演会を開催した。テーマ；「研修成果を臨床看護の質向上につなげるために」講師：看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属実践研究指導センター 和住淑子教授

参加者の反応から『学習する組織；システム思考で未来を創造する（ピーター M. センゲ、英治出版、2011）の“学習と仕事を一体化させる”内容に関する関心が高いことがうかがえた。

【27年度第3回合同研修会（9月12日）】

参加者：31名

第1回合同研修会に参加したうえで修正してきた各病院の27年度研修企画を、“軸モデル”を使って評価した。26年度に実施した研修が何をねらっていたのか＝“軸”として据えているのは何かを意識づけることで、27年度の研修とのつながりや、“軸”からずれていないか、ふれていないか、ふれないための研修運営で留意する点は何かを指摘した。



※27年度各病院の研修テーマ（概要）と研修日時

- ◆春江病院：「自信を持って取り組もう！退院支援」（11月5日）⇒ 研修視察：「赤川、大川」
- ◆福井勝山総合病院：「考え行動できるリーダーになろう；一緒にリーダー力を高めよう」（10月7日）
⇒研修視察：寺島
「考え行動できるリーダーになろう Part2」（12月18日）⇒研修視察：「寺島」
- ◆林病院：「みんなが理解しよう「退院支援」」（6月3日・7月17日・7月31日）⇒研修視察：寺島
- ◆嶋田病院：「本当はもう実践している！？退院支援；看護師・リハビリ連携を中心に」（8月13日・8月20日）⇒研修視察：寺島
- ◆泉が丘病院：「事例から、看護と介護の連携の実際を考えてみよう！」（12月10日・12月17日）
⇒研修視察：寺島

【第4回合同研修会（2月6日・7日）】参加者：34名

◎目的：①27年度に実施した研修の実施、評価と今後の研修の方向性を明らかにする

②中小規模病院研修機能強化プログラムに参加して研修企画力がどのように変化したかを明らかにする

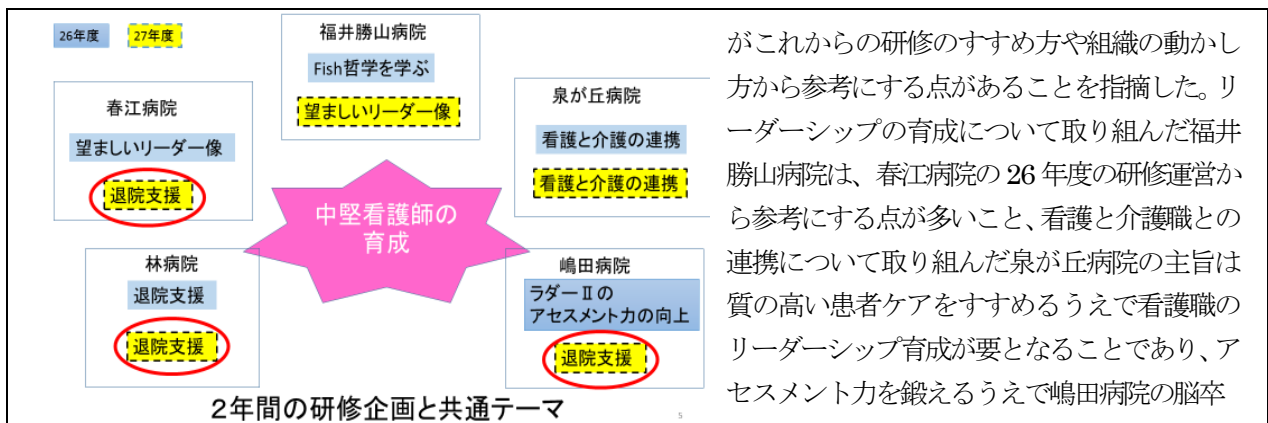
◎研修会運営の概要と結果：①各病院が実施した研修の紹介と評価では、“三重のつながり”や“軸モデル”を使って研修評価をしていた。②本プログラムに参加して研修企画力の変化については、病院枠を超えてスタッフチームと管理者グループに分けてグループワークを行った。管理者グループには、企画者からみた1) 病院としての研修企画力の変化、2) 管理者からみた企画者の変化、3) 院内研修をどのように考えるようになったかである。スタッフチームは4グループに分けて、1) 院内研修を企画するうえでこれまでどのような話し合いがなされてきたか、2) この研修に参加して今はどのようなことを考えるようになったか、3) 研修企画するうえで“三重のつながり”や“軸モデル”はどのように活用できたかである。

グループワークの結果スタッフチームの1) について、従来の研修企画が病院理念や看護部理念、参加者の学習ニーズを意識することなく一方的な研修であった。2) について、常に研修の軸をかんがえるようになり、研修実施までの準備に時間をかけるようになった。3) について、現状の問題点と看護部が目指す目標を繋ぐことで方向性が明確になった、軸が決まっていれば企画者間の話がずれることなく次の研修の課題が明確になり、同じ方向に向かって意見交換ができるようになった。

管理者グループから企画者の変化として、企画者間の意思が共有され企画者と看護師長がともに考える拮がりのある研修になった、企画者がビジョンを持って企画することの必要性に気づきどう育ててほしいのかを明確にして研修を企画するようになった、これまでの研修は企画者本位で企画していたが、本プログラムによって参加者のニーズを考えるようになり、研修の成果を現場の看護に活かせるような全体のシステム化を図るようになった。さらに、今後の課題として繋いでいかねばならない点として、師長の協力と理解、師長会と委員会のリンクが重要であること、本プログラムで学んだことを、次のスタッフにどのように伝えていくか、組織としてどのように根付かせるかが重要になる。

◎各病院の今後の研修の方向性：2年間の5病院の研修テーマを概観し、5病院に共通のテーマがあり研修運営において病院間で情報交換や参考になる視点をまとめた。共通のテーマは「退院支援」と「リーダーシップがとれる看護師の育成」である。その中核になるテーマが“中堅看護師の育成”といえる。

退院支援をテーマに2年間取組み、組織全体を動かした林病院の取り組みは、嶋田病院や春江病院



がこれからの研修のすすめ方や組織の動かし方から参考にする点があることを指摘した。リーダーシップの育成について取り組んだ福井勝山病院は、春江病院の26年度の研修運営から参考にする点が多いこと、看護と介護職との連携について取り組んだ泉が丘病院の主旨は質の高い患者ケアをすすめるうえで看護職のリーダーシップ育成が要となることであり、アセスメント力を鍛えるうえで嶋田病院の脳卒

中患者の病態アセスメントの研修が参考になると指摘し、今後の病院間の連絡網を活かすように助言した。

○研究の成果

1. 中小規模病院の院内研修の企画力育成・強化モデルとして提案した“三重のつながり”の有用性

①研修企画・運営における有用性

26年度第1回合同研修会で“三重のつながり”を紹介した。自病院の研修の問題点を“三重のつながり”から明らかにし、5病院に課せられている自病院の理念や看護部理念を意識し、参加者の学習ニーズを明らかにしながら研修を企画した。その結果、研修目的の明確化、研修対象者の的を絞ることが可能になり、運営方法も講義形式の研修から、グループワークを採用した研修が増えた。そのために企画者は相当な時間を準備し研修運営を考え、研修後の参加者の変化を臨床実践のなかに見出そうとするようになった。これは研修企画を介して臨床現場が抱える問題点を見出し、次の研修テーマに繋げようとする企画者自身の変化に繋がっていた。

②企画力強化のための“軸モデル”の創出

26年度の研修企画の評価から27年度研修の方向性を考えるうえで、研修と研修のつながりを意識するための“軸モデル”の必要性が生じた。このモデルによって現状の問題点と研修を介して目指すべき理念を意識することが可能になると同時に、企画者間が同じビジョンをもって話し合いをすすめ、可視化しながら研修評価や次の研修企画に繋げるうえ有用であった。

2. 2年間の「中小規模病院研修機能強化プログラム」で実施した研修の成果と中小規模病院間のつながり

病院理念を意識しながら研修企画をすることで、5病院の研修テーマは“退院支援”と“リーダーシップがとれる看護師の育成”であり、研修対象者は「中堅看護師の育成」であった。地域包括ケアシステム構築に向け中小規模病院に課せられた役割は、在宅療養支援を念頭においた早期退院であり患者家族が望む退院支援が行える看護師の育成は喫緊の課題である。しかも超急性期を乗り越えた患者のケアには介護職をはじめとした多職種との連携や協働は不可欠であり、2年間の5病院の研修企画を介した取組みは看護の質の向上に繋がっている。なかでも林病院の退院支援の研修企画は、院内の退院支援システムの域を超えて、地域の医療機関との連携体制を図る情報交換として「医療連携事務者情報交換会」の設立にまで至った。

「合同研修会」として5病院が互いの研修企画を評価し、研修視察を行った成果も大きい。従来、他病院の研修を視察する機会はなく、研修企画の段階で研修の目的や運営方法について討議することは自病院の研修企画において有効である。合同研修会での他病院や大学教員からの指摘が自院の研修企画において刺激となり軌道修正になったという意見が、27年度第4回合同研修会の場合でも確認できた。そして今後の各病院の研修の方向性を考えるうえで、5病院間の研修運営方法や退院支援システム化に向けた取組みの実際について、参考とすべき点を指摘し、病院間の繋がりを活かす素地を整えた。

3. 県下病院の看護師対象に、成果報告会の開催

28年3月21日に県下病院の看護師を対象に、「研修企画力強化モデルを活かした院内研修の変化」をテーマとして、成果報告会を開催予定である。27年度第2回合同研修会で招聘した千葉大学看護学教育研究共同利用拠点の和住淑子教授による、研修企画力育成・強化モデルと中小規模病院研修機能強化プログラムの評価を得る予定である。フォーラム準備で各病院が2年間の取組みを振り返ること自体が、中堅看護師である企画者の更なる育成に繋がると考える。

- 1) 赤川晴美・大川洋子・寺島喜代子・吉村洋子；福井県内病院看護部長職等が捉えた看護職者院内教育の現状と課題、福井県立大学論集、第41号、69-85、2013。